

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Verbal Abuse during Pregnancy Increases frequency of newborn hearing screening referral: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠中に受けた暴言による新生児聴覚スクリーニング要精査の増加(JECS)

ユニットセンター(UC)等名: 高知UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: child abuse and neglect

年: 2019 月: 4 巻: 90 頁: 193-201

筆頭著者名: 小森 香

所属UC名: 高知UC

目的: 妊娠中のパートナーからの暴力には身体的、性的、情緒的暴力を含んでいる。このうち情緒的暴力、特に両親からの暴言が子供への聴覚に影響を及ぼす報告はあるが、妊婦へのパートナーからの暴言が胎児への聴覚について影響を与えるかについては調べられていない。

方法: JECSの全国データに登録された104,102人から、選別された79,985組の妊婦とその子供を対象とした。アウトカムの評価には新生児聴覚スクリーニングを用いた。危険因子としては2種類のDV(暴言と暴力)を用い、共変量には16種類の因子を用いた。関連性の解析には多重代入法後、ロジスティック回帰分析を用いた。

結果: 79,985組の妊婦とその子供のうち、10,786 (13.5%)人の妊婦がパートナーから暴言を受けており、978 (1.2%) 人が暴力を受けていた。また、787 (0.98%) 人の新生児が新生児聴覚スクリーニング検査で要精査となった。妊娠中にたびたび配偶者から暴言を受けていた妊婦の新生児が新生児聴覚検査の要精査となる率は、暴言を受けていない妊婦の新生児が新生児聴覚スクリーニング検査の要精査となる率と比べて優位に高かった。(オッズ比1.44; 95% 信頼区間: 1.05-1.98)

考察:(研究の限界を含める) 本研究により、妊娠中のパートナーからの暴言が胎児の聴覚機能に影響を与えることが示された。それには妊婦の暴言による精神的なストレス、胎児が不快な環境にさらされている点、暴言という騒音、の3点の影響の可能性があると考えた。研究の限界として、今回の調査では18,125 (18.5%) 人の新生児が新生児聴覚スクリーニング検査を受検しておらず、この未受検者と受検者との間に違いが見られている。また、聴覚異常の要因として遺伝的素因があるが、本研究では親の聴覚についての情報が無く、この点について調整できなかった。また、暴言の程度についてはわからなかった。

結論: 妊娠中のパートナーからの度重なる暴言が新生児聴覚スクリーニングに影響を与えることが明らかにされた。今後、妊娠への精神的な影響だけでなく、胎児への身体的な影響の点から、パートナーからの暴言を防止する必要があると考えられた。